

研究課題番号	5-2304
研究課題名	魚類急性毒性試験の動物福祉に配慮した試験への転換に向けた研究
研究実施期間	令和5年度～令和7年度
研究機関名	国立環境研究所
研究代表者名	山岸 隆博

1. 評価結果

評価ランク：A

2. 委員の指摘及び提言概要

動物福祉を配慮した魚類急性毒性試験への転換という目標に向けて、毒性症状診断に基づく安楽死導入の可能性の検討、および代替法としてのFETの活用の適用範囲の推定法については、概ね計画通りに進められ、計画通りの成果を上げている。ニジマス鰓細胞試験の適用範囲はFET試験に比較して狭いことを見出しており、データの精緻が期待される。メダカとゼブラフィッシュでは「瀕死」の判定に大きな差はないと予想していたが、種差も検出されており、その定量化のためには動画解析の導入を期待したい。概ね毒性評価の検証は計画通りに進んでおり、データの「定量化」手法について、社会実装に大きく貢献できると期待している。なお、どの時点で安楽死をさせると、苦痛をどの程度軽減できるのかといった根拠を得る意義と方法に曖昧さが残っており、適用できる薬剤が限られており、その汎用化には多くの検討が必要である。